

# とちぎ 米麦改良

令和7年7月  
第135号

(公社)栃木県米麦改良協会  
宇都宮市平出工業団地9番地25  
☎(028)616-8700



## 本県農業の推進方針と種子生産に期待すること

栃木県農政部 経営技術課長 大橋 隆

公益社団法人栃木県米麦改良協会並びに会員の皆様には、日頃より本県農政の推進と優良種子の安定生産について、特段の御理解と御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

本県農業は、農業者の高い技術力、広大な農地と大消費地に近い立地条件など優れた点を活かし、全国有数の農業産出額（2,959億円：令和5年）を誇っています。このような中、近年の農業を巡る情勢は厳しさを増しており、資材高騰の長期化に伴う生産コストの増加や異常気象による災害発生の頻発やカメムシ等の多発による、収量及び品質の低下など、農業経営を脅かす事象が増加しつつあります。

さらに、高齢化の進展により「担い手」の減少が続いており、特に、昨年11月に農林水産省が示した「2020年に比べ、2030年の農業経営体は約50%減、農地は約30%減」という試算は大変衝撃的と感じているところです。

このような背景を踏まえ、国においては令和6年6月に新たな「食料・農業・農村基本法」を施行し、同法に基づき、令和7年4月に今後5年間で農業の構造転換を集中的に推進し、持続的な発展を目指すための「食料・農業・農村基本計画」を閣議決定しました。

県においても、「成長産業として持続的に発展する農業・栃木」を目指すため、新たに発生した課題に対応しながら、今年度最終年度を迎える栃木県農業振興計画「とちぎ農業未来創生プラン」の総仕上げとして、多くの

若者が本県で就農して稼げる農業を展開し、若い力で地域の活性化に繋げる「就農環境日本一」の構築を進めています。また、本県農地の8割を占める水田を活用した土地利用型農業では、高温下でも品質低下が起こりにくい「とちぎの星」の生産拡大や生産コスト削減を目指した各種スマート農業機器の導入を支援しています。

一方で、主食用米については、“令和の米騒動”と呼ばれる販売価格の高騰がありましたが、安定した稲作経営を続けていくためにも、長期的な視点の下、需要に応じた生産が必要と考えています。併せて、水稲と麦との二毛作や、水稲との作業分散が可能な大豆は、食料安全保障の観点から国産シェアの拡大が望まれており、それらの種子を生産する皆様への期待は今後も増大していくと考えております。

その種子生産の現場では、生産者の高齢化や減少が続く中、通常の栽培管理に加え、農業機械の活用が困難な“異株の除去”などの採種ほ場ならではの細やかな作業を実施していただくなど、優良種子の安定生産に携わる皆様の弛まぬ努力には敬意を表するところです。今後も県では栃木県米麦改良協会や各農業協同組合などの関係機関と連携しながら、技術・経営面での指導や支援を行い、本県農業の発展に向けた施策を推進して参りますので、皆様のより一層の御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

# 令和6年産大豆の作柄及び令和7年産大豆の安定多収に向けたポイントについて

栃木県農政部経営技術課

## 1. 令和6年産大豆の生産概況

- 作付面積 2,630ha (全国16位)
- 収 穫 量 3,310 t (全国13位)
- 単 収 126kg/10a\*(全国8位)  
(平年157kg/10a)
- 大粒大豆の1・2等割合  
47.9% (R1～R5平年66.5%)
- 作 柄 不良

(収量・等級割合は農林水産省発表。等級割合は令和7年2月28日公表の速報値。)

### ■天候と生育

#### ○播種時期(6月～7月)

6月の降水量は県南では平年より多く、県央・県北部は平年より少雨となりました(小山:平年比115%、大田原:平年比41%、宇都宮:平年比82%)。本県の大豆播種適期は6月15日～7月5日であるが、梅雨入り前後の6月18日及び23日に比較的多量かつまとまった雨が降った以外は、作業に影響するほどの降雨はなく、播種作業は概ね順調に行われました。

出芽、初期の生育は良好で、平年並みの生育でした。

#### ○開花期～子実肥大期(8月上旬～9月)

開花は7月末から始まり、平年に比べ3～5日早まりました。7月下旬～8月中旬は、高温で経過したこと、1週間程度降雨がなかったことから、一部ほ場では花落ちが見られました。

8月下旬は前線や台風等の影響で多雨、日照量は少なく経過し、子実の肥大に影響があったと考えられます。

#### ○成熟期～収穫期(10月～12月)

株の黄化は10月初めから始まりましたが、青立ち株が発生、成熟期が遅れました。これは作期全般で気温が高く推移したこともありますが、10月が非常に高温だったことが大きいと考えられます。

また、成熟期を過ぎても茎水分の低下が遅く、莢先熟の状態となったほ場が多く、収穫作

業が本格化したのは11月中旬以降でした。麦類の播種作業との競合もあり、12月までずれ込んだほ場も見られました。

#### ○病害虫の発生状況

べと病は平年よりやや広範囲に発生が見られましたが、発病程度としては軽度でした。8月に入り、葉焼病、斑点細菌病も多く見られました。また、例年よりも紫斑粒が多くなり、等級低下の一因になりました。

8月中旬頃から県南部を中心にハスモンヨトウやその他チョウ目類幼虫が発生し、9月末まで若齢幼虫が確認されましたが、被害は軽微でした。カメムシ類は8月以降、平年並～やや多く発生し、10月頃までは場内で確認され、吸汁害(奇形粒、扁平粒、腐敗粒等)が多発しました。

#### ○収量・品質

農産物検査における大粒比率(直径7.9mm以上)は88.3%(平年値90.1%)と高いが、外観が小粒傾向であるという指摘が多く聞かれました。また、単収は126kg/10aで平年比80%と低くなりました。

品位等検査結果では、大粒・中粒の半分以上が3等や特定加工用となり、その落等理由は①しわ粒②病害粒(紫斑、褐斑)③虫害粒(主としてカメムシによる吸汁害)でした。

【参考】生育期間の気象データ(アメダス地点:宇都宮)

#### ○気温

月別の平均気温は平年に比較して高めに推移しました。6月は平年に比べ1.4℃、7月は2.8℃、8月は2.0℃、9月は3.1℃、11月は2.7℃高くなりました。

#### ○降水量

月別の降水量は、平年比で6月は82%、7月は66%、8月は237%、9月は81%、10月は68%、11月は107%でした。

#### ○日照

月別の日照は、平年比で6月は133%、7月は135%、8月は101%、9月は105%、10月は

80%、11月は106%でした。特に、8月下旬は日照が少なく、平年比で57%となりました。

## 2. 令和7年産大豆の安定多収に向けたポイント～基本技術の徹底と病害虫防除～

### 1) 排水対策

#### ① 額縁明渠の設置

地表水の早期排除のため、ほ場周囲に排水溝(明渠)を設置します。排水口は低く掘り下げて排水路につないでください。



溝は掘ってあっても、排水路に繋がっていない事例をよく見かけます。必ずほ場外へ排水できるように設置してください。

#### ② 心土破碎

プラソイラ等により浸透排水性を高めます。



プラソイラ



スタブルカルチ

大豆作でも気候変動対策技術の開発が求められていますが、“高温”に対する技術はまだ確立されていません。“乾燥”の対策では「畝間かん水」がよく知られていますが、土性・土質や管理作業によって向き不向きがあります。しかし、大豆が十分に根を張れるだけの作土深の確保や適切な排水対策を取ることで少しでも“乾燥”の影響を軽減出来ると考えられます。

### 2) 適期播種

播種適期：6月15日～7月5日。

適期に比べ播種が早すぎると、①主茎が伸びて倒伏しやすくなる。②過繁茂により病虫害の発生が多くなる。③分枝数・莢数が多くなり過ぎ、株内の熟ムラ＝青立ちにつながります。

遅すぎると①生育量不足で大幅に減収します。②寒い年は早霜で成熟に至らないこともあり得ます。特に麦跡の場合は注意しましょう。

播種時期の見直しについては以前より議論されていますが、極端に播種時期を遅らせると明らかに収量が低下します。遅くとも7月中旬までには終わらせましょう。

### 3) 病害虫防除

令和6年は、水稻を初め、果樹、露地野菜などでカメムシ類の被害が大問題となりました。大豆も同様です。

大豆の防除は病害との同時防除が一般的で、8月～9月上旬にかけて1～2回行われている事例が多くを占めます。近年の夏期高温によりカメムシ類の活動が長期化している可能性が高いため、9月下旬の防除をご検討ください。

「里のほほえみ」は「タチナガハ」よりも紫斑病に強い品種ですが、令和6年産において紫斑病が多く見られたのは10月中旬～11月にかけての降雨によるものが大きいと考えられます。

農薬登録上、収穫前日まで使用可能な薬剤はありますが、まずは本病の感染を確実に防ぐことが重要です。

紫斑病は罹病した残渣も感染源になりますので、令和6年産と同じほ場で作付を予定している場合は種子消毒を必ず行ってください。本ほでの防除の際は、気象庁の1か月予報等を参考にし、8月後半以降の降水量が多い予報であれば、2回目防除を適切に行うなどの対策をご検討ください。

また、刈り遅れや収穫後の乾燥が遅れたりすると被害が拡大しますので、適期収穫、乾燥作業には十分注意してください。

### ■大豆作付拡大について

主食用米の価格高騰等を受け、大豆の作付意向は減少傾向となっています。

以前より、国産大豆の需要は堅調です。栃木県産里のほほえみを求める実需者は確実に居て、需要に対して供給が足りない状況です。国の補助事業等を有効に活用いただき、大豆生産拡大に御協力をお願いします。



# 令和6年産水稻種子生産実績及び 令和7年産水稻種子生産計画

## 1 令和6年産水稻種子の生産実績

春先から秋にかけて気温が高い状態が続きましたが、概ね順調な生育となりました。特に分げつ期に当たる6月上旬以降おおむね天候に恵まれ、全もみ数はやや多くなったことから、数量については、全ての品種で契約対比100%と必要種子量を確保することができました。

種子生産者並びに関係機関の皆様へ、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

### 令和6年産稲種子生産実績数量

品種名	J A 名	面積 (ha)	契約 (t)	実績 (t)	対比 (%)	合格 消毒 (t)	合格 未消毒 (t)	準 消毒 (t)	準 未消毒 (t)	※売上金額 税別 (百万円)
コシヒカリ	なすの	147	590	590	100	200	390	0	0	215
	なす南	61	242	239	99	180	59	0	0	87
	小計	208	832	828	100	380	448	0	0	302
あさひの夢	しもつけ	47	205	205	100	84	122	0	0	75
なすひかり	しおのや	10	41	41	100	5	36	0	0	15
とちぎの星	しもつけ	67	295	295	100	104	191	0	0	108
	はが野	32	140	140	100	48	92	0	0	51
	小計	99	435	435	100	152	283	0	0	159
夢ささら	なすの	0.3	1.2	1.2	100	0.0	1.2	0	0	0.4
水稻うるち計		364	1,514	1,511	100	620	891	0	0	550
きぬはなもち	しもつけ	4	14	14	100	0	0	0	14	5
水稻もち計		4	14	14	100	0	0	0	14	5
月の光 (飼料用米多収品種)	なすの	18	77	77	100	0	77	0	0	28
飼料用米多収品種計		18	77	77	100	0	77	0	0	28
水稻計		386	1,606	1,602	100	620	968	0	14	583

※売上金額:生産実績数量に種子生産者価格を乗じた。

(有機栽培種子)

品種名	法人名	面積 (ha)	契約 (t)	実績 (t)	対比 (%)	合格 未消毒 (t)	備考
コシヒカリ	民間稲作	1.3	1.7	2.1	125	2.1	NPO法人(上三川町)

## 2 令和7年産水稻種子の生産計画

令和6年12月10日に開催した令和7年産稲種子生産ほ場設置計画会議において、生産計画が承認されました。

稲種子の需要状況を及び在庫状況を踏まえ、なすひかりは前年計画より増産、それ以外の品種については令和6年産と同様の生産計画としました。

令和7年産稲種子生産計画

ア、品種別 (単位:ha、t、百万円)

品種名	面積 (ha)	前年増減 (ha)	前年対比 (%)	数量 (t)	前年増減 (t)	※売上見込金額(税別) (百万円)
コシヒカリ	208	0	100%	832	0	329
あさひの夢	47	0	100%	206	0	81
なすひかり	11	1	106%	43	2	17
とちぎの星	99	0	100%	435	0	172
夢ささら	0.3	0.0	100%	1.2	0	0.5
きぬはなもち	4	0	100%	14	0	6
月の光 (飼料用米多収品種)	18	0	100%	77	0	28
水稻計	387	1	100%	1,608	2	634

※売上見込金額:生産計画数量に種子生産者価格を乗じた。

イ 種子場別 (単位:ha、t、百万円)

JA名	品種名	面積 (ha)			数量 (t)	※売上見込金額(税別) (百万円)
		令和7年産	前年増減	前年対比	令和7年産	
なすの(黒羽)	コシヒカリ	147	0	100%	590	233
なすの(塩那)	月の光 (飼料用米多収品種)	18	0	100%	77	28
なすの(大田原)	夢ささら	0.3	0.0	100%	1.2	0.5
合 計		165	0	100%	668	262
なす南	コシヒカリ	61	0	100%	242	96
しもつけ	あさひの夢	47	0	100%	206	81
	とちぎの星	67	0	100%	295	117
	きぬはなもち	4	0	100%	14	6
合 計		118	0	100%	515	204
はが野	とちぎの星	32	0	100%	140	55
しおのや	なすひかり	11	1	106%	43	17
水稻計		387	1	100%	1,608	634

※売上見込金額:生産計画数量に種子生産者価格を乗じた。

(有機栽培種子)

法人名	品種名	面積 (ha)			数量 (t)
		令和7年産	前年増減	前年対比	令和7年産
民間稲作	コシヒカリ	1.0	0.0	100%	1.7

# 令和6年産大豆種子生産実績及び 令和7年産大豆種子生産計画

## 1 令和6年産大豆種子の生産実績

播種以降、高温・多日照で経過しましたが、発芽～初期の生育は良好で湿害等の障害もほとんど見られませんでした。7月下旬～8月中旬にかけては適度な降水に恵まれ、干ばつの心配もなく、莢付きは平年並みとなりました。一方、9月以降も気温が高く経過した影響により、11月中旬以降も青立ち株が残ったほ場が多くみられました。そのため、収穫遅れ、病害虫の被害や収穫期の降雨による品質の低下及び減収が想定されたことから、準種子の確保を図りました。

厳しい作柄状況の中、種子の確保に努めていただいた種子生産者並びに関係機関の皆様へこの場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

令和6年産大豆(里のほほえみ)種子生産実績

JA名	面積 (ha)	契約 (t)	実績 (t)	対比 (%)	合格 (t)	準A (t)	準B (t)	※1 売上金額 税別 (百万円)
なすの (大田原)	12	21	18	87	4 24%	14 76%	0 0%	10
なすの (黒磯)	9	17	15	93	11 72%	4 28%	0 0%	9
なすの (黒羽)	6	10	6	54	1 25%	4 75%	0 0%	3
なすの 計	27	48	39	82	17 43%	22 57%	0 0%	23
なす南	12	22	20	92	2 8%	12 61%	6 31%	10
合 計	39	70	59	85	19 31%	35 58%	6 10%	33

※1 売上金額:生産実績数量に種子生産者価格を乗じた。

## 2 令和7年産大豆種子の生産計画

令和7年4月24日に開催した令和7年産大豆種子生産ほ場設置計画会議において、以下のとおり生産計画が承認されました。

大豆種子の需要状況及び大豆種子場JAの作付意向を踏まえ、生産計画数量は前年対比約89%としました。

### 令和7年産大豆種子生産計画

#### ア. 品種別

品種名	令和7年産種子生産計画			令和6年産種子生産計画		
	面積(ha)	反収(kg/10a)	数量(t)	面積(ha)	反収(kg/10a)	数量(t)
里のほほえみ	35	166	57	39	180	70
合計	35		57	39		70

#### イ. 種子場別

JA名	品種名	種子生産ほ面積(ha)			反収(kg/10a)	生産数量(t)
		令和7年産	令和6年産	前年対比(%)		
なすの(大田原)	里のほほえみ	11	12	96	166	19
なすの(黒磯)	里のほほえみ	9	9	93	166	14
なすの(黒羽)	里のほほえみ	4	6	76	166	7
	計	24	27	91		40
なす南	里のほほえみ	10	12	86	166	17
合計		35	39	89		57

# 令和7年度事業計画

公益社団法人 栃木県米麦改良協会

## I. 事業方針

主食用米の価格高騰、温暖化に伴う気象変動、種子生産者の経営実態を踏まえ、稲麦大豆の優良種子が県内に安定的に生産、供給できるよう取り組みます。

特に今年度は、種子品質の更なる向上とリスク管理の強化に重点的に取り組みます。

また、県内の種子産地が将来にわたって維持・発展していくための具体的対応策の検討を進めます。

## II. 実施事業

### 1. 優良種子の安定生産・安定供給

主要農作物振興の基盤となる優良種子の安定生産・安定供給を図るため、計画的な種子生産と生産指導、品質管理に取り組みます。

#### (1) 種子生産計画の策定

県・関係機関と連携し、翌年の種子需要量見込、備蓄数量、一般栽培の販売動向などを総合的に勘案し「種子生産計画」を策定し、種子産地に配分します。

※ 令和7年産種子生産計画：別表1

〈主な事業〉

- ・ 種子生産計画の策定
- ・ 種子消毒量の算定(令和7年産から当年産のみ)
- ・ 種子生産者と採種ほ場面積の確保
- ・ 飼料用米多収品種の種子確保
- ・ 種子生産の県間調整

#### (2) 生育状況と生産見込数量の把握

ほ場確認等に参加し、種子生産ほ場での生育状況を現場確認し、必要な対策を助言指導するとともに生産見込数量の的確な把握に努めます。

特に今年度は、産地における圃場確認方法の平準化に取り組みます。

〈主な事業〉

- ・ 圃場確認方法の平準化の検討
- ・ ほ場確認会の立会・確認



#### (3) 種子品質の確認・管理

種子検査見本品の作製・配付や調製程度確認会を開催するとともに産地における発芽試験結果の確認、備蓄種子の発芽試験等を行います。

特に今年度は、発芽試験の方法など種子産地における種子品質確認の充実強化に取り組みます。

〈主な事業〉

- ・ 下見指導会、農産物検査の立会・確認
- ・ 発芽試験結果の分析検討
- ・ 種子検査見本品の作製・配付と調製程度確認会の開催

#### (4) 種子栽培技術の向上

各種研修会の開催、種子伝染性病害防除等への助成を行い、種子生産技術及び品質の向上を図ります。

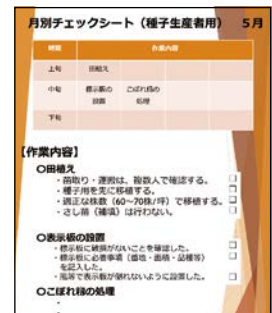
特に今年度は、種子栽培の慣行化による品質低下を防ぐため、チェックシート(GAPシート、栽培履歴と連携)を新たに導入し、確実な実施確認に取り組みます。

〈主な事業〉

- ・ チェックシートの導入(大豆6月・麦類10月・稲2月)
- ・ 種子品質向上研修会や種子生産研修会の開催、栽培講習会への参加
- ・ 種子伝染性病害防除、品種転換圃場の漏生対策(除草剤)への助成

※参考：

チェックシート  
イメージ



#### (5) 混種事故防止

混種事故防止に向け、チェックシートの導入や2品種以上を作付する生産者の取組事項の明確化と実施確認、出穂時のDNA検査の検討等に新たに取り組むなど、コンタミ事故を絶対に起こさないための取組を強化します。

別表1 令和7(2025)年産主要農作物種子生産計画(県内産)

種類	品種名	面積 (ha)	数量 (t)			売上見込額 (税別・百万円)	注1	
			7年産	6年産	前年産比			
主食米	コシヒカリ	208	832	832	100%	329		
	あさひの夢	47	206	206	100%	81		
	なすひかり	11	43	41	<b>106%</b>	17		
	とちぎの星	99	435	435	100%	172		
	夢ささら	0.3	1.2	1.2	100%	0.5		
	きぬはなもち	4	14	14	100%	6		
	小計	368	1,531	1,529	100%	606		
飼料米	月の光	18	77	77	100%	28		
稲 計		387	1,608	1,606	100%	634		
六条大麦	シュンライ	46	103	117	<b>88%</b>	31	注2	
二条大麦	ニューサチホゴールド	213	692	692	100%	196		
	とちのいぶき	5	16	18	<b>90%</b>	5		
	もち絹香	8	26	17	<b>155%</b>	7		
	小計	226	735	727	101%	208		
小麦	さとのそら	14	50	55	<b>91%</b>	14	注3	
	イワイノダイチ	15	48	35	<b>138%</b>	14		
	タマイズミ	12	38	55	<b>70%</b>	11		
	ゆめかおり	2	5	27	<b>19%</b>	2		注4
	小計	42	141	171	82%	41		
麦類 計		313	978	1,016	<b>96%</b>	280		
大豆	里のほほえみ	-	-	70	-	-	注5	

注1) 売上金額は、生産計画数量に種子生産者価格を乗じた。

注2) シュンライは、上記の外数として8tを県外に生産委託し、令和7年産で111tを確保します。

注3) さとのそらは、上記の外数として25tを県外に生産委託し、令和7年産で75tを確保します。

注4) ゆめかおりは、上記の外数として20tを県外に生産委託し、令和7年産で25tを確保します。

注5) 大豆種子の生産数量は4月に決定します。

有機水稻	コシヒカリ	1.3	1.7	1.7	100%	-
------	-------	-----	-----	-----	------	---

また、稲種子のDNA分析を実施して混種事故を未然防止します。

〈主な事業〉

- ・ チェックシートの導入(大豆6月・麦類10月・稲2月)
- ・ 種子生産者の1品種作付け推進
- ・ 2品種以上を作付けする種子生産者の確認項目の明確化と実施確認
- ・ 原種専用ネット使用の利用・確認
- ・ 収穫機械等を起因とするコンタミ事故の検討
- ・ 稲種子DNA分析・調査の強化
- ・ 事故処理財源の確保(事故処理負担金)
- ※事故処理に備えて種子生産者から1円/kgを預かります。(事故がなければ返金)

## (6) 備蓄管理

作柄不良や急激な需要拡大においても優良種子を安定して供給できるよう、関係機関・団体とともに、種子の需要動向把握や適正規模の備蓄確保を行うとともに、販売ができなくなった残量種子の処分を、残量処理負担金を徴収して実施します。

〈主な事業〉

- ・ 計画的な種子の備蓄
- ・ 県補助金の活用(県オリジナル品種)
- ・ 備蓄種子の発芽試験
- ・ 残量処理の実施(種子購入者からの残量処理負担金)
- ※残量処理財源として、稲・麦類・大豆の種子販売価格に10円/kgを加算します。

## (7) 受検対策

受検対策会議を開催し、事前指導事項の徹底を図り、栃木米品質の高位平準化と円滑な受検の実施を図ります。

〈主な事業〉

- ・ 米受検対策会議の開催
- ・ 品質向上に向けた啓蒙チラシの作成配付

## (8) 稲麦大豆(一般栽培)の生産振興

稲麦大豆の需要拡大に向け、栽培技術指導及び品質改善指導資料を作成、配付します。

また、安全・安心で高品質、高食味な稲麦大豆を生産するため、地域の生産者を対象に地方農業振興協議会が実施する各種講習会に助成します。

## (9) 情報発信

協会情報紙「とちぎ米麦改良」を発刊・配付するとともに当協会ホームページにて生産者や関心のある一般消費者向けに生産技術等各種情報を発信します。

## (10) 種子生産情報システムの運用

システムの本稼働により種子関連の情報共有の即時化を図ります。また、チェックシート等との連動による種子に係る事務処理の効率化を検討します。



図：種子生産情報共有システム

## 2. 種子生産体制の強化

稲麦大豆の優良な種子が将来にわたって安定供給されるよう種子生産者や種子場JA、種子センター等の現状と課題を踏まえた種子生産体制強化に取り組みます。

〈検討事項〉

- ・ 優良種子生産体制&技術の次世代継承策(事例調査等)
- ・ 種子センターの維持強化(計画的修繕と財源確保、職員の負担軽減)
- ・ 将来的な種子産地のあり方

## Ⅲ. 令和7年度主な事業活動予定

別表2





## 種子生産研修会を開催しました

優良種子の生産と安定供給を図るための課題を共有し、生産技術の向上を図ることを目的に種子生産者研修会を毎年2月に開催しています。本年は、2月13～14日、鬼怒川グランドホテル夢の季において、昨年に引き続き宿泊で開催し、各種子場生産者との意見交換や懇親を深めることができました。

### ◆全体集会概要

近年、規模拡大・作期分散により出穂直後の穂が常に存在することや地球温暖化による越冬死亡率の低下などによって、クモヘリカメムシやイネカメムシが増加しています。特にイネカメムシは、斑点米だけでなく不稔粒被害を多く生じさせ被害は深刻な状況にあります。

このような中、「水田等における近年のイネカメムシの生態、被害及び防除法について」農研機構中日本研究センターの石島上級研究員の講演を受け、イネカメムシの生態や防除法等について学習することができました。



### ◆分科会概要

稲・麦・大豆の3分科会に分かれて、それぞれの現状と課題や今後の対応等について議論し課題の共有と今後の対策等について論議を行いました。いずれの分科会においても高齢化、後継者の問題、技術の継承、施設の老朽化などの課題があげられました。今後5年先や10年先を見据えた取組が重要になってきます。

また、優良種子生産者の事例報告や新規種子生産者の取り組みについての報告もあり、将来に希望もありました。



麦分科会



稲分科会



大豆分科会

### ◆功労者表彰

今年度から、新たに長年にわたり部会長を務めて頂いた方がご勇退する時に感謝と敬意を表するため表彰することといたしました。今年度は、以下の2名の方が表彰されました。

小山農業協同組合 小麦採種部会 前部会長 相川祥男様

那須農業協同組合 黒羽採種部会 前部会長 益子英一様

長い間、採種部会の発展に貢献頂き大変ありがとうございました。引き続きのご指導・ご協力よろしくお願い致します。



相川祥男氏

### ◆部会表彰

優良種子の安定供給と品質向上を図るためには、種子生産の重要性を生産組織全体が認識し、採種技術の高位平準化と意識の高揚が重要になります。このため採種事業に積極的に取り組み、貢献された組織に対し優良種子生産部会として表彰しています。今年度は、以下の3部会が受賞されました。



益子英一氏

(稲種子の部)

#### 「下野農業協同組合 採種部会」

令和5年産の飼料用米多収品種「夢あおば」への生産に続き、令和6年産においても「あさひの夢」「とちぎの星」への作付けと2年連続となる品種転換に取り組みました。

(大豆種子の部)

#### 「那須野農業協同組合 今泉大豆集団栽培組合」

#### 「那須南農業協同組合 下中野大豆組合」

令和5年産大豆は、記録的な猛暑により作柄は「やや不良」となりました。一方においては、国内産大豆の需給が高まっている中、「里のほほえみ」の契約確保に尽力し、契約数量を大きく上回る出荷実績を達成しました。

## 種子栽培履歴& GAP シートを一元化していきます！

これまで種子GAPについては栽培履歴報告書、GAPチェックシート、コンタミチェックシートを用いて実施されてきましたが、煩雑な作業となっていたことから効率的に栽培管理ができるようこれらを「チェックシート」へ一元化します。



種子生産者の皆様におかれましては、「チェックシート」へ実施した作業等を記入いただき、栽培管理の相談へ活用いただきますようお願い申し上げます。

また、記入状況については種子場JA及び本会が確認いたしますので記入後のご提出にご協力賜りますようお願い申し上げます。

### ○チェックシート配付スケジュール

大豆	R7. 6月配付
麦類	R7. 9月配付
稲	R7. 12月配付

## 採種農家の皆さん


# 農作業中の事故が増えています！

### 草刈り

草刈りは保護具を着用する必要があることから、**熱中症リスクが非常に高い作業**です。暑い日は極力作業を控え、どうしても行う必要がある場合は、**保護具の装着に加え、熱中症対策アイテムの活用やこまめな休憩・水分補給を行うなど、細心の注意を払ってください。**

**農作業中の熱中症対策チェック**

- 高温時の作業は避けましょう**  
一般的に70歳以上の方は、のどがかわきやすさや尿意の上昇を感じづらくなります。日中の気温の高い時間帯はあけて作業しましょう。
- 単独作業は避けましょう**  
なるべく2人以上で作業し、時間を決めて声をかけあったり、異常がないか確認しあうようにしましょう。
- 20分おきに休憩&水分補給しましょう**  
涼しい日陰などで作業をせず、体温を下げましょう。のどがかわいていなくても、20分おきに毎回コップ1〜2杯以上を目安に水分補給しましょう。



▲ファン付きウェア

身体に風を吹き込み、**気化熱で涼しい**



▲水冷ベスト

冷水がチューブで循環し、**身体を直接冷やす**



▲ヘルメット・帽子

過熱素材を練り込んだものや通気性のあるものなど、素材や機能性もチェック



▲ネッククーラー

首元は冷やす場所として最適  
水や氷を使用するもの、充電して使用するものがある

### 稲刈り

- 9月はコンバインによる事故が多く発生しています。
- コンバインは運転席からの死角が多く、少しの段差でも傾き易いという特徴があります。狭い場所では降車して路肩を確認するなど慎重に作業しましょう。また、組作業では補助者を機械に近づけさせない、後進はホーンを鳴らしてから行うなど、必ず作業前にルールを確認しましょう。
- また、チェーン等に巻き込まれて指や腕を切断する事故が報告されています。収穫期間が限られ、日暮れも早くなるため、どうしても焦りがちとなります。ワラ等が詰まったらエンジンを停止する、手こぎ作業では手袋を外すなど、最も早く作業を終わらせる方法ではなく、最も安全に作業を行う方法を選択しましょう。

コンバイン走行時の注意点



死角に人がいる場合が...

手こぎ作業時の注意点



注意報発令！（令和7年7月6日）

# イネカメムシが多発しています！

水稻に甚大な被害を及ぼすイネカメムシが県南地区を中心に急増しています。昨年度、イネカメムシ被害（収量減、品質低下）の大きかった岩舟地区では、種子生産者が、様々なイネカメムシ防除対策を講じ被害を最小限にとどめることに成功しました。そこで、水稻種子生産で有効と考えられる防除方法を事例から御紹介します。

## イネカメムシとは？

イネカメムシは、成虫の体長が12～13mmに達する大型の斑点米カメムシ類です。一部地域では個体数が激減し、絶滅寸前の状態に陥りました。

しかしながら、2010年以降、茨城県、埼玉県、群馬県など各地で再び発生が確認されるようになり、被害報告が相次いでいます。特に2020年以降はその分布が急速に拡大し、全国で確認されるに至っており、収量の大幅な減少が報告される深刻な状況となっています。

本種は、籾の基部を中心に吸汁加害を行い、斑点米の発生原因となるほか、不稔を引き起こし、大幅な減収を招く害虫です。

## 今年の発生は？

栃木県が実施したイネカメムシ越冬状況調査において、県南部にて越冬個体が確認されました。7月に入り昨年と同様に県南部では大量発生しており、県中部でも大量発生する可能性があります。

## どんな防除が有効だったか？（岩舟地区での対策）

### ◆3回以上の防除で、被害は大幅に軽減

- ・ 計画的な複数回の防除により高い防除効果が期待できます。
- ・ 特に従来より早期の防除が重要となります。
- ・ イネカメムシの薬剤抵抗性の発達を防ぐため、必ず異なる系統の薬剤をローテーションで使用しましょう。（詳細は最寄りの農業振興事務所へご相談ください。）

### ◆地域全体での一斉防除

地域全体での防除によりイネカメムシの飛来・定着を効果的に防げます。

### ◆共同防除（無人ヘリ等）に加え、入念な個人防除を実施

丁寧な防除により被害を最小限とどめましょう。

### ◆農薬散布は午前10時までに完了

10時を過ぎると気温が上がり、日陰（株元）へ移動し、薬剤が届きにくくなります。